



# 心がこもっていない言葉は、ごまかし



最近、国会中継を見ている、野党の質問に対し、正面から答えようとしない、安倍首相の早口言葉、はぐらかし言葉に怒りがわいてきます。「国民の平和と安全」を連発し、真逆の事をたくらんでいる態度は、国民を愚弄しています。

8月6日、被爆70年「原爆の日」、広島平和記念式典での安倍首相のあいさつで、歴代内閣が堅持する立場を取ってきた「非核三原則」を無視しました。その前日の8月5日、中谷防衛相は、安全保障関連法案を審議する参院特別委員会で、「核兵器、化学兵器、毒ガス兵器は輸送可能か」と問われ、「法律上は排除していない」と答えています。

「集団的自衛権行使容認は、憲法に違反していない」

どうそぶく安倍首相、小学生でもわかる嘘を公然としゃべる感覚、人間性を疑います。

東京大学法学部教授の石川健治さんは、「安倍政権は、国民に信を問うことなく、閣議決定により、法的連続性を切断してしまいました。∴政府レベルで法秩序の連続性の破壊が起こった場合を、法的にはクーデターといえます」と、述べています。クーデターとは「法の破壊」の一種なのです。なるほど∴「法的安定性は関係ない」に繋がっているのですね。

私たち、額に汗して働く労働者の願いは、人間らしく働きつづけ、生きつづけられる平和な社会生活です。

心から出た言葉で、相手の心を捉えることが、人間としての生き方ではないでしょうか。

『月刊まなぶ』企画編集委員

須藤 行彦 (県協連絡会議会長)